

# 令和3年 前期 景況調査報告書

令和3年1～6月期 実績

令和3年7～12月期 見通し




徳之島三町商工会

(令和3年7月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等、地域の経済動向について半期毎に変化の実態等の諸状況を迅速・的確に収集しているものである。













この報告書の中で用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値であり、企業の景気動向を表す指数として利用されている。

## ＜お天気マークの説明＞

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和3年1～6月期を対象とした。令和3年7～12月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 徳之島町商工会・天城町商工会・伊仙町商工会
- 回答企業 対象企業 29企業  
製造業：6企業 建設業：5企業 小売業：9企業  
サービス業：9企業  
(※徳之島の29企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数とご理解いただきたい。)

## 島内産業別業況DI

		製造業	建設業	小売業	サービス業
前期比	(2020年7月～12月期)	 5.6	 ▲26.7	 ▲18.5	 ▲29.6
前年同期比	(2020年1月～6月期)	 ▲4.2	 ▲35.0	 ▲5.6	 ▲5.6
来期見通し	(2021年7～12月期)	 ▲12.5	 ▲35.0	 0.0	 ▲16.7

## 総合（業況）

前年同期（2020年1月～6月期）と比較した今期（2021年1月～6月期）の業況は、製造業▲4.2、建設業▲35.0、小売業▲5.6、サービス業▲5.6となった。業況は前年同期と比較して、製造業とサービス業はまあまあ、建設業と小売業は不振となった。製造業は都市部との取引減少など影響は続いているが、昨年度程の影響ではなく、まあまあの業況となった。建設業においては新型コロナウイルスの影響による公共工事の減少や規模縮小、またウッドショックの影響で仕入れ高の高騰などの影響によりきわめて不振となった。小売業でも同じく引き続き新型コロナウイルスによるイベントの中止や大型店舗の影響等により不振となった。サービス業について、飲食業や宿泊業等は島内の新型コロナウイルス感染者数の増加や島外の緊急事態宣言に伴う外出自粛の影響により大きな不振となっているが、その他サービス業については比較的業況が回復傾向にあり、全体としてはまあまあの業況となった。

## 業種別景気動向

### 【製造業】 有効回答数 6 企業

		売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
前期比	(2020年7月～12月期)		16.7	-	-		0.0		0.0
前年同期比	(2020年1月～6月期)		0.0		▲16.7		0.0		0.0
来期見通し	(2021年7月～12月期)		▲33.3		▲16.7		0.0		0.0

#### <調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・島外の都市部等との取引が新型コロナウイルスの影響で減少しているが、回復の兆しも見られた。

#### 経営上の問題点

- ・需要の停滞が上位を占めている。また、製品ニーズの変化への対応、取引条件の悪化を問題とする企業も多くある。

### 【建設業】 有効回答数 5 企業

		売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
前期比	(2020年7月～12月期)		▲40.0	-	-		0.0		▲40.0
前年同期比	(2020年1月～6月期)		▲60.0		▲40.0		▲20.0		▲20.0
来期見通し	(2021年7月～12月期)		▲20.0		▲60.0		▲20.0		▲40.0

#### <調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナウイルスの影響による公共工事の減少や、ウッドショックに伴う仕入れ高の高騰の影響で業況は落ち込んでいる。

#### 経営上の問題点

- ・材料価格の上昇や従業員の確保難が上位に挙がっている。

### 【小売業】 有効回答数 9 企業

		売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
前期比	(2020年7月～12月期)		▲22.2	-	-		0.0		▲33.3
前年同期比	(2020年1月～6月期)		0.0		▲40.0		0.0		▲11.1
来期見通し	(2021年7月～12月期)		0.0		▲60.0		0.0		0.0







#### <調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナウイルスの影響によりイベントの中止や飲食業の仕入れ減の影響を受けている。また大型店への顧客流出による売上の減少にも依然悩まされている。

#### 経営上の問題点

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う外出自粛の影響による来店客の減少や、大型店・中型店の進出による競争の激化、購買力の他地域への流出を問題とする企業が上位を占めている。

## 【サービス業】 有効回答数 9 企業

		売上額		採算		資金繰り		業況	
前期比	(2020年7月～12月期)		▲33.3	-	-		0.0		▲77.8
前年同期比	(2020年1月～6月期)		▲11.1		▲16.7		▲11.1		▲77.8
来期見通し	(2021年7月～12月期)		▲22.2		▲16.7		0.0		▲66.7

### <調査対象企業が感じている景気判断コメント>

- ・引き続き新型コロナウイルスの影響により飲食業・宿泊業は不振が続いている。その他のサービス業については回復傾向がみられるところもある。

### 経営上の問題点

- ・ほとんどの企業が新型コロナウイルスの影響を挙げている。

《参考となるその他の景況から》

2021年6月4日  
日本銀行鹿児島支店

## 鹿児島県金融経済概況

### 【概要】

鹿児島県の景気は、このところ足踏み状態となっている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、一部に弱めの動きがみられているものの、基調としては緩やかに持ち直している。観光は、厳しい状況が続いている。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増勢が一服している。

生産は、増加している。

企業部門の動向を短観（3月<鹿児島・宮崎両県集計分>）で見ると、景況感は、非製造業を中心に小幅に悪化した。設備投資は、高水準で推移している。

こうした企業動向を反映して、労働需給は、改善しつつある。雇用者所得は、弱い動きとなっている。

### 【各論】

#### 1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額、家電販売額、乗用車新車登録台数（含む軽自動車）

のいずれも、前年を上回って推移している。

## 2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。

## 3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回って推移している。

## 4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を上回った。

## 5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、汎用・生産用機械、電気・情報通信機械を中心に前月を上回った。

## 6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を下回って推移している。

## 7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

## 8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。

以上

日本銀行鹿児島支店HP参照 <http://www3.boj.or.jp/kagoshima/>